

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年一月度 入選句 (投稿総数三千五百三十一句・一般投句数四百五十一句)

特選

嫁の役母の役終へ木の葉髪

大垣市

村田 通夫

孫娘が三才、一才の二児を育てるのを見、食事、お襦袢替え、泣き声等で子育ての大変な事を知る。四月から幼稚園の送り迎えが始まり、小学校から大学迄、就職、結婚と母の役は多忙であり、嫁の役も、協力的な旦那ばかりでは無く、利己主義、気儘、遊びに熱中する人も、老齡化で落着いて来られる方が多く、これからの木の葉髪時代を明るく楽しく充実した人生を送ろうと上手によまれた良い句だと思います。

隣り合ふ閉店開店街師走

大垣市

早崎 美弥子

大垣駅前では最近飲み屋さん、飲食店さんの開店が相次いでゐる。小店舗の物販店さんは、郊外型大型店に押されて閉店される店が有る。そのあとは殆んど飲み屋さんで有る。飲酒運転を避ける為、交通機関が充実してゐる駅前が開店理由なのか、十二月の師走は特に開店が多かった。なんとか大垣の商店街が繁栄しないかと思はれて作られた俳句か、隣り合うの言葉がい

親友に御無沙汰詫る年賀状

大垣市

伊藤 千尋

年賀葉書は五十二円に据置された結果か、若者が年賀状離れと云はれた程には減らなかつた様です。親友に年賀状を出されなかつた理由は不明ですが、一年一度の事で有り、頂いた年賀状を整理し頂いた方には翌年出して居られる方が多い様です。私もそうしていますが、役職が減り、亡くなる方も有り少しづつ減つて居ります。新しい年を迎えるに相応しい制度習慣です。出来れば続けましょう。中句がいいと思います。

秀逸

塞銭の音もかそけき冬の寺

埼玉県深谷市

小林 敏男

合図は何一斉に翔ぶ寒雀

大垣市

佐竹 余史美

活断層覚まさぬように冬田打

大垣市

棚橋 みさを

老い忘れツリーを飾りて窓光る

大垣市

松岡 みつ

折り返し出来ぬ人生冬至粥

大垣市

鶴田 信子

拍手のひねもす響く初詣

大垣市

田中 雅子

カレンダー反りの落ち着く松七日

大垣市

宮脇 和子

初御空晴れて眩しき白伊吹

大垣市

早崎 美弥子

袖湯して柚子の浮力を楽しめり

不破郡垂井町

久保田 紘義

初曆大観富士の厨かな

大垣市

平野 きぬよ

入選

御神酒注ぐ巫女の衣擦淑氣満つ	養老郡養老町	田中	紫香
古里や見慣れた道に柿一つ	大垣市	奥田	和子
着ぶくれて句会に急ぐありがたや	大垣市	野原	富美
言い訳を懺悔に変えし除夜の鐘	大垣市	ケセラ・セラ	
運動会カメラに向けて孫さがす	羽島市	伊藤	みさの
ぶちようほう熱爛こぼし愚痴こぼし	大垣市	吉田	てるみ
雲一つ乗せて伊吹に初日さす	不破郡垂井町	富田	実郎
箒目を残し淡雪掃かれをり	大垣市	岡田	あや子
初せりや祝儀値弾む魚市場	大垣市	森川	きよ子
老いて尚寿新たに初句会	大垣市	坪井	克枝

入選

山里の日暮は早き吊し柿	安八郡神戸町	澤崎	和子
手を振りて孫と別れし冬月夜	大垣市	平野	きぬよ
白銀の輝き立てり伊吹嶺	不破郡垂井町	竹嶋	富美子
松過ぎてもとの二人の生活かな	大垣市	伊藤	鈴子
席ゆずる少女の動き寒ぬくし	大垣市	多和田	一徳
風邪の子の寝息たしかめ灯り消す	安八郡神戸町	高橋	日出美
年玉のランドセル置く枕もと	安八郡神戸町	高橋	泰
年忘れ愚痴を笑顔で通りぬけ	大垣市	高木	佐知子
初日射す絵馬鈴生りの天神社	愛知県名古屋市	岩田	遊泉
鯖酒や相好崩す頑固爺	埼玉県春日部市	水	夢

選者吟

お辞儀され誰か分からぬ大マスク

庄 一 郎